

# 多賀工業会千葉県支部会報

第14号

敗戦50年特別号

俳句 春秋

塚越としを

二十五 電気

さくらさくら 水柔らかき遊びかな

高度一万 花前縁を追い抜けり

残る鴨 水の重さを羽博ちけり

逃水や 話題の女将 このあたり

鍼力店の奥の暗さや 夏隣

藍鏡に藍の華咲く 走り梅雨

凌霄の落つる昏さを 思ひをり

鯉刺の一瞬の水 煙りけり

風鈴屋 渚通りへ 曲りけり

新涼の若き閑節 鳴らしけり

秋澄むや セイタカシギを遠眼鏡

養虫の悪戯鬼といふ 愛しやう

狸穴や 木枯に背ヲ襲はれし

風流のはじめの牡丹 焚かれけり

硬質の水 あふれけり 一の西

齒科治療 恵方ときめて座りけり

高山 和夫

二十二 機械

支笏湖をめくりて定山溪の瀑につかる

数へし湯槽は十あまり八つ

つかる湯は打たせ湯サウナ湯泡立つ湯

窓そと定山溪の山は新緑

夏一日 草津のいで湯訪ね来て

西の河原に茂吉歌碑のまへ

日曜のテレビに厭かず観し棋戦

新聞棋譜に確めて視つ

目で追ふて指でなぞりぬ譜面の石

納得のゆく石ゆかぬ石

五十年過ぎしか この日も暑かりき

わが見し原子雲八時十五分

昭和20年に多くの尊い命と領土を失い、焼け野ヶ原になった国に行み終戦を迎えた。私事で甚だ恐縮だが筆者は真珠湾攻撃に使われた特殊潜航艇の整備科予備学生として入隊し訓練を受けた。終戦間近には乗手が不足し第2搭乗配備として出撃要員となり戦争が後3ヶ月も続いていたら特攻隊として国に殉じていたかも知れなかった。復員・復職したがかっての航空機工場はバカや日用品を作るのに精一杯、給料の遅配・欠配は日常茶飯事であった。労働運動の解放によってストライクが頻発した。その後朝鮮動乱による特需により経済力が向上したが基盤が弱く続いて企業倒産が相ついだ。(昭和28年-29年)

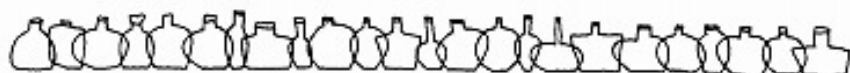
それ等の困難・打撃に打ち勝つ努力が漲り生産性の向上・QCの導入等で30年代後半には時の首相の言として“もはや戦後ではない”と言わしめた。そして39年には待望の東京オリンピックが開かれた。その後〇〇景気とか××景気と繰り返し次第に経済力が強くなった。

併しながら日の当たる場所には必ず翳りがある。その翳りとして第1次・第2次の石油ショックに見舞われ経済を直撃した。だが、努力により世界に先駆けて圧力を乗り切った。然し、JIT0-0が効かずバブル時代を迎えることになる。盛者必滅・山高ければ谷深しの諺の通りバブルが弾け経済の悪化が今日まで尾を引いている。

現在、我が国の政治も経済も元気がない。円高による企業の空洞化を憂える識者も多く双刃も概して自虐的である。日本の技術力が落ちたとか、経済の劣化を口にするが、未だ日本の製品が世界のマーケットの70%以上を占めているものが液晶・セラミック等多くあり自動車についても欧米の攻勢が激しいが、米国での信用度調査ではベスト10のうち7台が日本車である。嘗って造船王国の日本が韓国に追い上げられるのは技術の採用、生産性の向上で

引き継ぎそうとしている。“賢者は歴史に学ぶ”という言葉を噛みしめて活力を引き出して欲しい。21世紀は高齢化社会の到来による新たな困難な問題が山積している。

戦後50年で、学んだことを無駄にしないように願っている。



#### 平成7年度・事業報告

3月：埼玉支部総会出席（三幣幹事長）

5月：幹事会開催：場所・フローラ西船 出席者・10名。

7月：会報第13号発行・東京支部総会出席（三幣幹事長）

8月：千葉県支部総会 場所・フローラ西船 出席者・34名。

サッポロビール千葉工場を見学して総会・懇親会・抽籤会。

10月：第六回 ゴルフ親睦会 千葉SPカントリー 優勝 富田宣吉氏（37工化）

12月：工場見学・旭硝子株式会社 千葉工場 忘年会・船橋グランドホテル。

1月：会報14号 発行。

昭和14年5月22日・官立多賀高等工業学校精密機械科に合格（現茨城大学工学部）。

昭和16年9月 精密機械科長内田教授の推薦を得て就職面接の運びになった。会社は川崎市木月の東京航空計器（株）だった。「技術部長の福田為蔵さんは、帝大時代ー現東京大学の友人なので必ず挨拶するよう。原田は学校創立一番最初の面接だ。頑張って来い」との激励の言葉を戴いた。当社は戦時中だったので非常に人気のあった会社で、シフト制を使用した、米国P-W系の「自動操縦装置」を製作していた。当社を希望したのは夏期休暇に航空試験所に実習し試験官のお供をして東京近辺の計器会社（東京計器・東京航空計器・中田計器・柳計器等）の検査に立会いながら有望な就職会社を物色していた。

当日は特別で私一人だけであった。技術部長・総務部長・社長に挨拶をした後形ばかりの面接質問と筆記試験が行われた。帰りに「内定した」と内田に言伝えるよう、お土産・交通費・日当一円を買って帰校した。その後の試験で帝大出以下30名が採用された。同期としては、金属卒の池上駿三君がいた。

12月8日 開戦のラジオを聞き意気込みながら早生れを除きクラス全員随町河原子小学校において徴兵検査・M検・第一乙種合格。12月28日 繰り上げ卒業・懐かしい学校を去る。  
昭和17年1月6日 会社初出勤（総務部付）。 1月20日 軍隊入営のため休職（勤務15日）。  
2月1日 大阪府泉北郡信太山・野砲兵第四聯隊（中部第27聯隊）に入隊。幹部候補生。  
5月 陸軍予備士官学校入校 11月 卒業・見習士官 12月 任官・少尉 後 陸軍中尉。  
昭和18年8月 南方軍マリア島動員下令 10月 廣島出航 11月3日 夜マラッカ海峡にて敵潜水艦と交戦  
4日 マリア島に上陸 19年3月 ｲﾝﾄﾞﾆｰｼﾞｱ工場空襲を受け壊滅 10月 ｽﾚｰｷ 防衛のため転進。  
20年8月 終戦 9月26日 飛行場にて降伏式 10月 訊問。

としていた（第一次欧州大戦でドイツ兵 4,000名が餓死した島）に抑留。  
その生活を強要された。21年5月20日 帰国・復員・除隊 帰郷早速復員挨拶  
行く。ところが会社には米兵が居住しており会社は 20年8月31日 既に、解散  
これが私の人生の「アヤ」のつきはじめであった。

ここで就職する会社は全然なく、やっとたどり着いたのが船橋の野村製鋼（株）  
（約2,500 人位・従業員が勤務していた特殊鋼の会社）だった。10畝の土地 7棟の  
建物の一つに30年間しがみついていた。その間、経営者交替8回・倒産・売却最後  
の会社「アルミの窓なら不二サッシ」の船橋工場であった。やっと今度は大丈夫と喜んだ  
矢張り此処も駄目だった。50年3月 本社粉飾決算の煽りを食らい工場閉鎖・売却「株主  
に申し訳がない。責任者はクビ」と言うことで、私は解雇になってしまった。56才。

74才・現在第十回目の会社（千葉市にある電気設備）に勤務。毎日千葉県内の官庁・  
県庁・市町村役場に挨拶・名刺配りと称して腰に万歩計。フケク同窓生を訪問している。  
一方全国仲人連合会の船橋センター支部長として仲人もやっている。全国1,000 の支部と  
2万名の結婚を希望する男女会員（初婚・再婚・老後の伴侶を捜してる）がいる。お望み  
の方がおられたら御一報下さい。きっとお役にたつと思います。お陰で非常に元気で戦後  
50年の節目に当たり楽しみを見付けながら過ごしています。



絶好のゴルフ日和のもと、地元市原市で行われた富士通レデース・ゴルフを観戦した。お目当ての小林浩美を追って一日歩き回った。彼女が福島県磐城女子高の出身者で同郷のよしみもあり、また気さくな態度に応援をしているファンの一人です。今回はアメリカからの帰国第一戦で、どこのどこの興味がもたれた。初日は出遅れたが二日目は挽回して好位置につけた。最終日、福島選手と息詰まるような熱戦です。豪快なショットを繰り出す福島選手と比べれば、との差をみる思いですが我が小林選手は正確なショットで応戦し最後まで崩れなかつた。初日・二日目と軌道修正をしながら、最終日に猛チャージをかけられる戦い方は一段と、しなくなった姿でした。

彼女も試合が終われば普通の気さくな女の子です。アメリカでの修業が、一人の女の子をそのように変えるものなのではないでしょうか。

「人は自分の心のスケール以上の人生はつくれない」と言われます。我々企業人間は狭い世界の中を生きてゆくうちに心もそれにつれて小さくなってゆく気がします。今更、米国修業という訳には参りませんが、自分の貴重な心ですから大きく膨らませたいものです。

あの吼洋楽時代の心を持ち続けたいものです。なお、小林浩美は次の週のトーナメントでも逆転で優勝し、普通の女の子から遠ざかってゆくようです。



小グループでのレクリエーションには4人と言う数は、まことに都合が良い数である。普通車でドライブするには5人では窮屈、麻雀をするには4人が適当、ましてゴルフの場合3人では他のパーティーと組み合わせとなる場合もあるし、5人となると1人はあぶれてしまう。多賀の地で3年間を共に過ごした初老の4人が30数年振りに再会してから活動が始まった。春と秋の2回2日コースで旧交を温めている。1日目はドライブして宿に入り夜半まで麻雀でボケ防止のトレーニングに励み翌日は舌靴入りのゴルフで身体の老化を一防止している。

ところが一番張り切っていた一人が病魔に昌され春に呆気無く他界してしまった。当然春の行事は取り止め喪に服した。何時までもくよくよしても仕方ないから秋の行事から決行することにしたが、どうも調子がおかしい。車の後部シートに空間ができて何か忘れ物をしてきたようだ。夕食で一杯呑んでも氣勢が挙がらないし、三人麻雀では興味が沸いてこないの、仕方なしにテレビを見て早々とベットにもぐり込むこととなった。

お陰で翌日は爽やかな朝を迎えてゴルフは一番のスタートとなった。ショットの間には死んだ彼の話がでる。池に打ち込んだショートホールなどの話は尽きない。すいすいと、ホールは進んで昼飯前にはワンランドを終えてしまう。誰言うことなく天気の良いのにこのままで帰るのは勿体ない。それではもうハーフということになった。年金生活者が疲れも見せずにワンハーフ。しかもスコアは尻上がりで瀬上がりのビールは格別だった。

死んだ彼の分まで長生きをして何時までもゴルフが出来るように節制をして来春の再会を誓って別れた。

私は団塊の世代も真ん中です。完全に戦後の生まれですから、戦争そのものは記憶にありません。しかし私が小学生の頃には住んでいた町にはまだ米軍が駐留していましたし、埋め残った防空壕で遊んだこともありますから、少しは戦争の影のようなものはまだ肌で感じることができました。また少年雑誌には結構太平洋戦争の読み物がありましたから知識としての戦争はそれなりに得ることができました。それも1970年代になると自分自身が高度成長期の経済の中に巻き込まれ、第二次大戦は次第に遠いものになっていきました。

一方で私はこの数年、技術指導の仕事でアジア各国をまわることが多くなりました。私は日系企業の現地工場に派遣されているわけではありませんので、現地の企業家や従業員と比較的対等の立場で直接話をするが多くなります。始めは表面的な付き合いだけで感じませんでしたが、だんだんと親密な関係になり、かなり腹をわって話ができるようになります。思いの外、第二次大戦の傷跡がいまだに人々の心の中に、残っていることがわかってきました。これは直接戦争を経験した世代だけではなく、若い世代にも伝えられているのです。それも日本人が考えていることとはかなり差があります。勿論その状況は国によってかなり違いがありますが、日本が決して良い感覚をもって受け入れられているのではないということだけは確かです。最近国際化と称しながら、現実には安い労働力を求めて多くの日本企業が、海外に進出していますが、必ずしも、うまく機能していない話を聞きます。商習慣や制度の違いを理由にしていることが多いようですが、特に韓国中国のような場合、戦争の傷跡がいまだに修復されていないことが大きな要因になっている気がしてならないのです。日本がきちんと過去の清算をしないかぎり日本企業が本当にアジアに溶け込めるにはまだまだ時間がかかりそうです。



## 一 川 柳

初 詣

お隣が さい銭入れたら すぐ痒む  
 サイ銭を入れすぎ 願いを追加する  
 初詣 夫婦円満 子が祈り

節 分

鬼遣い 隣の外は 内の庭  
 鬼は外 だから世間は 鬼ばかり  
 節分に追い出した鬼 戻ってる  
 出した鬼 福の後から 入り込み  
 わが家では鬼が福つれ 逃げちゃった  
 豆撒きの間は 外で遊ぶ鬼

毎日新聞の・万能川柳・からの転載で  
 自作のものは一つもありません。  
 ふくむと感心するだけのファンです。

## 二 退 職

昭和二十八年卒業。入社から四十二年・この九月末退職・一介の男にかえりました。  
 昭和二十八年卒業とは、日本の独立回復後、初めての卒業であり、旧制大学の最終生  
 と新制大学の一回生との同時卒業という学制改革がもたらした異例の出来事となりま  
 した。

私は昭和十年に小学校へ入学し、それ以来今日迄六十年間常に時間の制約を受けて活  
 してきましたが、ここにきて、その束縛を解かれ二十四時間我の手になってみますと  
 なにやら戸惑いリズムの立て直しに奮心しています。これからは、よく歩き、よく読  
 み書きして、心の若さを失わず、出来得れば怒ることなく、気負うことなく、それで  
 も世の中をしっかりと見据えて、世界一長寿国の長寿社会にそろりと加わりたくと考  
 えています。変わらぬご交誼をお願い申し上げます。

イヨー！ GOD-ZILLA さま 出番ですよー 三幣正人 24機械

最近、必要があって屢々“貸しビデオ屋”に出入りしている。あれこれと捜していると『ゴジラ』の絵の加付を発見した。陸の巨獣「ゴリラ」海の王者「クジラ」の名前を合成して『ゴジラ』と付けたというのが『ゴヂラ』と書いたものもあった。漢字では『呉爾羅』米国では『ギ・キング・オブ・モンスター』と宣伝された。こんな先入感があったから、正式な英名が、『GOD・ZILLA』とは迂闊にも気が付かなかった。『GOD・ZILLA』は、凄く良い。特に頭部分の『GOD-神』が素晴らしい！適切で巧妙なホーミングだと感服してしまった。そこで、何故素晴らしいのか、一人で興奮してないで理由を述べることにする。 ー

よく不名誉は金で贖えるが、名誉は金で買えないという。いま、名誉なんかいらぬ。金で買えるなら“青春”を買いたい。生命の恐怖に奮えた青春時代・生命を維持する最低の「衣・食・住」を稼ぐため我武者羅に働いた壮年時代、そして「種の保存」の器官、全て衰え全細胞が再生能力を失って、オムツとオシメを心配する余生の少ない老人になってしまった。中国を制覇、絶大の権力を掌中にした秦の始皇帝が最後に求め回って得られなかった不老不死の妙薬が欲しい。でも儂い夢だ。ただ天命と諦め朽ちて果てるだけだ。

大正・バカバカを肌で感じたことはない。大正の末期・西暦1926年に生まれたからだ。昭和は金融の恐慌で幕が開く。第一次世界大戦は、一握りの“成り金”を生み、大衆は、「貧困」に青息吐息。農村は一部の大地主に支配され「貧困」は、極限状態。それを打開するのに欧州の大国が武力で「領土拡張」-「植民地化」に狂奔していた、帝国主義の道を選択した。多くの選択肢から苦渋の選択というが、その選択こそが「貧困」そのものだったといえよう。極論だが私は、戦争と敗戦で、苦渋した昭和と共に生きたことになる。

服従した人達にも大事な伝統的・文化・言語・文字・習慣等はある。銃剣を突き付けながら朝鮮・中国に進出・黙って俺についてこい！では、怨念は残る。まして、イイトヒヤッは勝者の台詞で単に口が滑ったでは済むもんぢゃない。組織や団体から離れて個人の立場で、逆の境遇に置かれれば直ぐ気が付くことだ。人権は、どんな場合でも相互に尊重する優しさと賢さと勇気を忘れてはいけないんだと、深く反省し謝罪すべきだ。

56年・昭和14年(1939)・9月1日 きな臭い一触即発の状態を破って飛行機・重火器を装備した、F1隊が騎兵を主力とする隣国・フランスに進撃した。戦闘は騎馬軍団の武田信玄・対・鉄砲の織田信長との長篠の合戦に似ていた。F1隊の圧勝・落下傘部隊でフランスを攻略・騎虎の勢いでフランスを蹂躙・難攻不落を誇る750kmに亘るマサザルを突破してフランスに、攻め込んだ。アレヨー！戦火はみる間にヨーロッパ全土に拡大、第二次世界大戦は勃発した。

この年 F1の科学者がウランの核分裂を発見、人間が生んだ鬼っ子『原子爆弾』開発の幕開けとなった。ユダヤ人狩りでドイツを追われ米国に亡命した科学者達が『核爆弾』の開発・製造を進言・コト・ハイ！・進言を容れて米国は急速『原子爆弾』の研究・生産を目的とした『マンハッタン計画』を練り上げた。

昭和16年(1941)・12月8日 アップ 島付近から南下した日本帝国艦隊が‘ニイガハマル’の攻撃命令を受信・戦闘機と別働隊の特殊潜航艇が、米国東洋艦隊が集結していた真珠湾に殺到・壊滅的打撃を与えた。中学一年の私は、通学途上でこの戦果を聞いた。やや肌寒い朝だった。

振り返ってみると、真珠湾攻撃は大いなる誤算があったのではなかろうか。その第一は外交による話し合いの道を放棄して日・米が戦闘状態に突入してしまったことだ。また日本からみれば奇襲作戦の成功だが国際法上・事前通告で非に反した禁じ手を指したことだ。



『核爆弾』12.5ktの爆発力は、標準的火薬TNT（トリニトロトルエン）の1.25斤分に匹敵する。因にTNT1斤は六階建のビルをぶっ飛ばす。その上『核爆弾』は、爆発の瞬間5000-7000℃の超高温を発生・家屋を焼き人畜を焼死させる。更に放射線を出して被害を与える。要するに爆風・熱線・放射線の三悪で加害する、正に地獄からの贈り物といってよい。

この地獄からの贈り物を運ぶ地獄からの使者は、この時点では飛行機だった。B-77・B-747の前身・B-29がこの役目を担当した。既に『核爆弾』を搭載・離陸する重量に耐える条件は達成していた。また『核爆弾』を投下・地上500-600mで爆発する迄の10秒間に、安全地帯に退避するため最低飛行高度10,000mを保って航行することも達成していた。最後に残された課題は、航続距離だったが、この段階では8,000kmだった。

ハワイからでも8,000kmだから片道切符しか手にしてなかった。サイパンからなら、2,000km・往復しても余りある。

だから、ニューギニア方面は横目で睨みながら、南太平洋に点在するマリアナ群島を桂馬跳びのように北上がフィリピン・サイパン・台湾と日本本土に迫ってきた。

昭和20年（1945）8月6日・8月9日 東京を出発したB-29は広島に、B-29・B-29・B-29は長崎に、原子爆弾を投下・一瞬にして焦土と化し、非戦闘員を殺戮した。尊い同胞の犠牲者を出した貴重な体験だ。世界有史以来『原子爆弾』の被爆は、日本だけだ。それから50年、未だ、その後遺症に悩む日本人がいる。

国際司法裁判所が広島・長崎市長を証人として招いた。両市長は原爆の違法性を、悲惨な資料を示して訴えた。日本人が「真実の惨めさ苦しさを」叫んで何故悪い。それを邪魔した奴がいる。それも日本人だ。行政の役人だ。行政の長は誰だ！だから、沖縄の人達が米国を非難するのぢやない。自国の政府の無理解を糾弾するのだという。理解できる。

現に米国でも、放射性物質を被爆・環境汚染で発病した人達がいる。

【マンハッタン計画】の拠点となり、原子爆弾を開発・生産した地域の住民達だ。不安と憤りは「住民の健康より国防を優先するのは許せない」と、不満を政府にアツけている。

ところで、起死回生を期し・日本軍が、米国本土をめざして開発した兵器がある。

福島県いわき海岸から、秒速100mの冬季偏西風に乗せて飛ばした所謂“風船爆弾”だ。旧来の火薬を搭載する本体は和紙、それを張り合わせた糊は弱弱・ $\mu$ は海砂だ。この爆弾が米国で爆発して非戦闘員が68死傷したという。『原子爆弾』の殺傷と比較して云々する気は毛頭ないが兵器としての“風船爆弾”程、地球環境に優しい爆弾があるだろうか。一  
また、一人の生命を一隻の軍艦と引き換える“神風特攻隊”は人権の無視だ軽視だと非難されよう。だが、非戦闘員に危害を加えたり殺傷することは、まったくしていない。習志野の空挺師団・土浦航空隊に残された二十才前後の特攻隊員の手記・手紙は滅私奉公忠孝の昇華だ。ただ藤まつき鎮魂の合掌あるのみだ。

連合軍調査団が日本にきて各方面に亙って調査した。核爆弾の被爆地、広島・長崎の惨状は余りに酷かった。開発・製造に携わった一部の米科学者は驚愕・『核爆弾』の使用を禁止する運動を提唱し始めたほどだった。

ところが、ソ聯は、第二次世界大戦の終極まで総力を挙げてF1弾と死闘を繰り返したので核開発の余裕はなかった。また『核爆弾』開発の可能性を疑問視していたが、惨状を現実みて急遽、核爆弾の開発・生産にとりかかった。人の不幸を国益と結び付ける神経は一体なんだったのか。核を保有しければ大国の面子が保てないと判断したためだろう。

大戦中・F1弾 F-101海峡を越えて霧の02F1を直接攻撃した『 $v^1 \cdot V^2$  のウツ』爆弾を開発した科学者達を総動員したという。

「ソレッテ・ヘリクツ〜チャーナーイ」「???」・・「チッチャン・・」 「何・・」  
 「ソレー ウルトラマン・デショー」・・「コレカラミニユクノ〜ゴジラ・デショ」  
 「ゴジラ最後の日だよ」 「(腕でマッ+) 恐れ入りました」 - 「チッチャン」 「何」  
 「オシッコ」「畏まりました！」自転車を止めて“爺や”は日毎に重たくなる“坊や”を  
 抱きながら額に滲む汗を拭く。“爺や”には余生で一番楽しい小さな時間かもしれない。

平成7年度年会費納入者氏名(計181名 略敬称)

- 16 前田晴朗 田中康雄 長尾和愛 原田正夫 渡辺義治 杉本喜久雄  
 17 市東志郎 地曳一夫 楡山良平 寺山 巖 林 詮 塚原 重  
 18 酒井清勝 加藤清明 石井弥二郎  
 19 大木一郎 木村一夫 鈴木幸男 野島貞夫 小林秀夫 柴 敏夫 荻谷 進  
 大山 巖 杉原達男 山田泰雄 佐々木 勇  
 20 鈴木友生 白鳥忠雄 嶋田 清 中村四郎 宮川澄夫 隈本孝之  
 22 山本芳正 高山和夫 福地敏郎 伊藤勝衛 明石和夫 川崎幹夫 安達恵三郎  
 佐藤 豊 井川滋郎 田口哲也 田村耕治 額賀利厚 御園生計夫 中村善一郎  
 23 篠崎三夫 松平静和 清宮文雄 大川栄一 一木 忠 高橋長男 大久保勝躬  
 岩下 晃 高島謹一 川上昭二 矢口三郎 保立辰巳 平野雄一 海野政之助  
 鈴木 滋 鈴木利久 26 岡安孝捷 川上 明 飛田良雄 長谷川宏佑  
 24 榊原信行 草刈 薫 佐藤 達 河野吉次 三幣正人 栗谷川文司  
 25 宮島正弘 高松恒夫 稲葉信彦 山田秀男 塚越要夫 小林喬夫 野田茂信  
 小河 孝 森 勇一 上田史郎 29 大津正夫 北村 健 榊 陽 大津勝男  
 28 関田達雄 吉田哲夫 橋本武雄 山田 充 石島 均 横井昭夫 池沢豊治

- 税所 裕 34 皆川孝之 幕内仁三 酒井森彦 黒沢一之 横山木積
- 30 中板昭夫 住谷永夫 榎山良邦 目黒 久 中野義正 木戸田松吉
- 31 平戸三郎 田中 宏 32 段家文彦 高橋利尚 33 照沼義光
- 35 大住 淳 高橋 清 織内 勲 土屋孝右 36 久野 清
- 37 富田宣吉 原 英雄 石川隆久 古橋弘治 佐藤栄一 佐藤哲雄 陣野友久
- 38 高萩隆司 綿引貞男 石井英正 高見忠彦 渡辺富勝 42 浜野絃一
- 39 市瀬忠彦 高崎芳紘 40 斎藤洋和 川野辺建 望月晴雄
- 41 渡部昭夫 柴 勇 黒川道生 渡辺 穰 44 日置和夫 梅田毅明
- 46 深山泰一 沼倉研史 47 金坂 潤 小出喜右衛門 48 浅野哲夫
- 49 長森 茂 50 平山良彦 高久 隆 51 戸村 寿 54 坂田昭夫
- 52 田中 隆 岩瀬幸男 53 八木純明 曾根 勉 60 神田 建
- 56 増淵公孝 中村祥孝 平野茂木 62 小野田満 63 望月輝久
- H1 徳永敬一 桑原弘明 長谷川晃久 宇佐美直之 H6 四野宮隆 小山真二郎
- H2 押田正樹 小野間隆 飯島史教 H5 鈴木正和 谷 如月 鶴田治己
- H3 笠原康嗣 H4 阿部哲也 柏木 保 荒城典雄 和賀修一
- H6 出山浩行 宮内宏和 田杭秀規 進藤誠司 旧職員 三好洋子

#### 編 集 後 記

1年2回の発行・14号は7年続いたこととなります。

特に、今回は敗戦50年なのでページを増やしました。毎回のご投稿感謝します。

ところで、そろそろ、編集担当を交替する時期にきたようです。

よし！やってやろうという人、自薦・他薦・問いません。支部長に御連絡下さい。